

## 《第24回全国ホタテ大手荷受・荷主取引懇談会》

- ・日 時 平成30年5月30日（水） 15:00～18:15
- ・場 所 ロイトン札幌 3階 「ロイトンホール」
- ・出席者 来賓：6名 荷受：55社 82名 商社：19社 33名  
生産者代表：10組合 21名 関係団体：1団体 3名  
荷主：50社 67名 その他：5名 報道機関

### I 開 会

#### II 主催者挨拶 代表理事会長 根田 俊昭

- ・ 北海道の水産物が近年、大きく減少している中、ホタテの生産は回復傾向。
- ・ しかしながら、欧米諸国、南米においては潤沢な生産が予想されており、輸出については厳しい状況になると予想。
- ・ このホタテを優れた北海道の水産物として、継続させていくための努力を皆さんと一緒にやって行っていきたい。

#### III 来賓挨拶 中央魚類株式会社 代表取締役社長 大滝 義彦 様

- ・ この三年間、北海道、米国東海岸の水揚げ不振により、日本の玉冷製品の単価は上がり、国内マーケットを半分に減らすこととなった。
- ・ 今期は、例年通りに回復する見込みにあり、今年を新たなホタテ製品の販売促進の為の「元年」と位置づけ、皆さんと一体となって拡販に注力していきたい。

### IV 来賓紹介

#### V 講 演

演 題 「ほたての生産・流通動向等について」

講演者 北海道漁業協同組合連合会 販売第一部 部長代理 難波 将史 様

#### VI 全体討議（総合司会：㈱長谷川水産 長谷川社長（副会長））

##### 1 ボイル・冷凍ボイル部門（進行：㈱丸太水産 坂本社長（理事））

- 内販はそれなりに売れており、輸出も出ているなど売れ行きが好調な反面、消費地では一度失ったマーケットの回復が難航しており、販売に苦戦している。
- 陸奥湾産ベビーホタテの影響もあり、大型サイズの荷動きは悪い。今後、夏場の需要期に向け拡販に取り組んで行きたい。
- 冷凍両貝の中国向け需要の影響があるが、内販向けの価格を考えた冷静な価格形成を望む。

##### 2 生玉・玉冷部門（進行：北見食品工業㈱ 田中社長（理事））

- 今年の玉冷の生産量は増える見込み。また、米国においても過去最大規模になる見通しで、輸出需要は大きく減少すると思われる。
- 今期は、国内需要の拡大が必要であり、1万5千トン以上が必要では。その為には、中心サイズの相場を考える必要がある。
- 去年は、卸価格を下げるのに時間がかかり、末端価格の値下げも遅れた。量販店向けに、早期に値頃感のある流通価格を形成することが重要。

### VII 閉 会